

改版履歴

版数	日付	Author	内容
ML000	2021/10/20	株式会社 アルテシード	新規作成。

DDCONCAT – DD 連結プログラム

プログラム概説

DDCONCAT は、割当て済みの DD ステートメントに任意のデータセットを連結するプログラムです。ISPF 実行中に、個人利用や学習用の CLIST や REXX exec 等を実行するために、SYSPROC や SYSEXEC の先頭に個人用の区分データセットを追加することができます。追加された DD 連結はログオン中の TSO セッションでのみログオフするまで有効です。

提供されるファイル

ファイル名	用途、内容
DDCONCAT.pdf	プログラム・マニュアル
DDCONCAT(MLnnn).txt	ソースモジュール兼アセンブル用 JCL (MLnnn の nnn はプログラム修正レベル)

インストール手順

- ① DDCONCAT(MLnnn).txt ファイルを、MVS 内の任意の区分データセット (JCL ライブラリ等) のメンバー「DDCONCAT」としてテキスト・モードでアップロードします (アップロード先のデータセットは RECFM=F または FB、LRECL=80 でなければなりません)。このファイルは DDCONCAT プログラムのソースコード・モジュールです。
- ② アップロードしたメンバー「DDCONCAT」をサブミットして、DDCONCAT プログラムのロードモジュールを作成します。サブミット前に JOB ステートメントを導入先環境に合わせて正しく設定します。また、PROC 内の変数 LLIB にロードモジュールの格納先データセットを指定します (メンバーの 22 行目参照)。ロードモジュールの格納先データセットは、任意のロードモジュール・データセットでかまいません。DDCONCAT プログラムには APF 許可は必要ありません。

ロードモジュールが作成できたら、インストール作業は終わりです。

プログラムの実行

DDCONCAT には 2 通りの実行方法があります。1 つは TSO のコマンド・プログラムとして直接実行する方法、もう 1 つは TSO の CALL コマンドによって実行する方法です。どちらの方法で実行するかはロードモジュールをどのデータセットに格納したかによって変わりますが、どちらの方法であっても TSO コマンド・プロンプトあるいは ISPF オプション 6 のコマンドシェル・パネルから行います。

▶プログラム (DDCONCAT) の格納先が ISPLLIB または STEPLIB データセットの場合

```
DDCONCAT ddname, dsname
```

例)

```
DDCONCAT SYSPROC, Z01234. CLIST
```

▶プログラム (DDCONCAT) の格納先が ISPLLIB または STEPLIB データセット以外の場合

```
CALL 'lmodlib(DDCONCAT)' 'ddname, dsname'
```

例)

```
CALL 'Z01234.LOAD(DDCONCAT)' 'SYSPROC, Z01234. CLIST'
```

2 番目のパラメーターで指定したデータセットが、先頭のパラメーターで指定した DD ステートメントの先頭に追加される形で連結されます。連結するデータセット名はアポストロフィ (') で囲まずにそのまま記述します (CALL コマンドで実行する場合は、上記例のようにパラメーター文字列全体をアポストロフィで囲む必要はあります)。正しく連結できたかどうかは、任意の ISPF パネルで DDLIST コマンドを実行すれば確認できます。

実行パラメーターの指定方法

パラメーター	パラメーターの意味・機能
ddname	値： 連結先 DD 名 省略値：なし (省略不可) 連結先の DD 名を指定します。(STEPLIB は指定できません)
dsname	値： 連結するデータセット名 省略値：なし (省略不可) 連結先に連結するデータセット名を指定します。先頭修飾子が TSO ユーザーID と同じでも省略できません。完全修飾名で指定しますが、DSN そのものはアポストロフィで囲んではいけません。連結場所は、連結先 DD の先頭です (連結順序は指定できません)。

▶ ISPF ライブラリーに連結する場合の注意点

ISPPLIB や ISPLLIB 等の ISPF ライブラリー用 DD ステートメントに個人用のデータセット等を追加する場合、ISPF 内のコマンド・シェル (ISPF オプション 6) から DDCONCAT を実行しても下記のようなメッセージが出て失敗します。

IKJ56246I DATA SET Z01234.ISPPLIB NOT ALLOCATED, FILE IN USE

ISPPLIB や ISPLLIB 等の ISPF ライブラリー用 DD 内のデータセットは、既に ISPF によってオープンされているからです。ISPxxxx の DD ステートメントに連結する場合は、ISPF を一旦終了させて TSO コマンド・プロンプトに戻り、そこで DDCONCAT コマンドを実行します。

完了コードとメッセージ

完了コード

値	意味
0	正常終了
4	パラメーターが誤っている。
8	(未使用)
12	連結するデータセットの割り振りもしくは連結に失敗した。

0 以外の完了コードで終了しても、コードの値そのものは画面上には表示されません。CLIST 内で実行していれば、&LASTCC 変数に完了コードが格納されますので必要なら WRITE ステートメントで表示できます。

連結するデータセットの割り振りに失敗した場合は、OS の割り振りルーチンからエラー理由を示すメッセージが表示されます。メッセージが出力されない場合は、パラメーターが誤っているか連結動作自体が失敗した可能性があります。まずは入力したコマンドを見て正しいパラメーター文字列を指定したかを再確認して下さい。パラメーターは正しいのにデータセットが連結されていない場合は、連結動作自体が失敗しています。背面パネル等で別の ISPF プログラム (ユーティリティ) を実行している場合は、それらを全て終了させてから再実行を試みます。それでも失敗する場合は、一旦ログオフして再ログオン後に改めて実行してみてください。

メッセージ

DDCONCAT プログラム自身はメッセージを出力しません。連結するデータセットの割り振りに失敗した場合のメッセージについては、必要に応じて z/OS のメッセージ・マニュアルでその意味を確認して下さい。